

1 趣 旨

「ナヒヤ」とは、モンゴル語で樹木の「苗」と「子供」を意味します。

「苗」を育てることは、森林を創ることであり、そしてそれは、地球の緑を守ることに通じます。また、「子供」を育てることは、幸せな家庭を育むことであり、延いては健全な地域社会を育てることにつながります。エコツーリズムやグリーンツーリズムといった「観光」の手法により、この地球の緑を守り（国外における環境保全活動）、地域を育てること（北海道の地域活性化）を目的とし、「ナヒヤの旅人」を設立します。

現在、世界では地球規模の環境問題が深刻化しております。先進国や経済成長国などで人間活動が拡大し、二酸化炭素、メタン、亜鉛化窒素などの温室効果ガスの濃度増加による地球温暖化の影響で、森林伐採や異常気象による砂漠化が進行しております。

国外における環境保全を目的としたエコツーリズム事業では、モンゴルやマレーシアなどにおいて「自然を楽しむ、理解する」をコンセプトにNGO団体等の協力を得て、植林などで貢献し、砂漠緑化や低炭素社会の実現及び、地元社会への利益還元を念頭に運営します。

また、今日、少子高齢化が現実化する中で、日本の中でも北海道において経済規模の縮小が最も顕著に生じると予測されています。特に地方に関しては、人口減少が急速に進み、地域活力の低下が懸念される中、国家的課題となっている地域再生を実現するためには、交流人口の拡大による地域活性化が不可欠であり、観光を基軸にした地域再生事業が重要となります。

ナヒヤの旅人は、北海道の豊かな地域資源を利用し、環境保全を目的としたエコツーリズム、地域による地域のための産業・文化観光、健康増進を目的としたヘルスツーリズムなど、新たなニーズや地域独自の観光資源の特性を踏まえたニューツーリズムの創出と流通を促進して、北海道観光を振興し、北海道の活力の源泉である地域活性化や観光産業の発展を図ります。

北海道における環境保全を目的としたエコツーリズム事業では、高齢化や過疎の問題を抱え、また、既存の観光資源の乏しい地域において、地域のNPO団体などと連携し、環境保全と町おこしが両立できるエコツアーを実施します。また、地域の団体や小中学校と共同で地域の新たな環境資源の発掘や、地域の環境資源をよく知ってもらうための環境教育プログラムを実施します。

学習型・体験型旅行事業では、地域資源を総合的にプロデュースすることで、地域観光資源の見直しと新しい観光資源を創出するとともに、小中高生には自然の素晴らしさを体験してもらうことによって、環境に関する実学的な教育を行えるものと考えています。また、農業体験などのグリーンツーリズム事業を運営することで、第一次産業の見直し、農地改革、農村再生にも寄与し、海外農家との交流により、安心安全な食の北海道ブランドの確立と地域の活性化を目指したいと思っております。

健康増進旅行事業では、心と身体の健全育成、生活習慣病の予防、その他自発的な健康づくりに有益な治療法など、ツーリズムを通じて、人々に発信し、人々が健康で幸せな生活を送ることができる福祉社会の実現を目指します。

しかし、これらの活動は、地域のNPOやNGO団体等の協力を得ながら非営利活動として進めていくこととしておりますが、旅行業運営上、法人格が必要ですので、特定非営利活動法人の設立が望ましいと考えております。

2 申請に至るまでの経過

昨今、少子化による人口減少、高齢化、地域疲弊など、国家的な課題が浮き彫りになっておりますが、この問題をツーリズム(観光)に位置づけ、改善できないか、併行し、深刻化している地球環境の保全及び、自然環境における人々の意識を改革できないかなどを考えておりました。

近年、観光はあらゆる面において、軽視されてきましたが、政府の観光立国推進計画やビジットジャパンキャンペーン、北海道においては、洞爺湖サミットや新千歳空港増設など、観光の増進に積極的な動きが見られるようになりました。他力本願ではなく、これまでの旅行業の知識や経験を生かし、上記問題の解決並びに、自然環境に対する意識改革が急務であり、そのための活動をしたいとの思いから、申請に至りました。

特定非営利活動法人 ナヒヤの旅人
氏名 伊藤 雅淳